

(財)児童育成協会について
《事務・事業説明資料》

法人概要

《基礎データ》

【22年度】 【(参考)21年度】

役員	常勤 1名 非常勤 8名	うち 国家公務員出身者	非常勤1名	常勤 2名 非常勤2名
職員	141名 (この他 非常勤職員5名)	うち 国家公務員出身者	常勤2名	常勤3名
予算	27.6億円	うち 国からの財政支出	5.6億円	5.6億円

* 役職員数は平成22年4月1日現在、うち国家公務員出身者については各年度の4月1日現在。予算については各年度の数値。

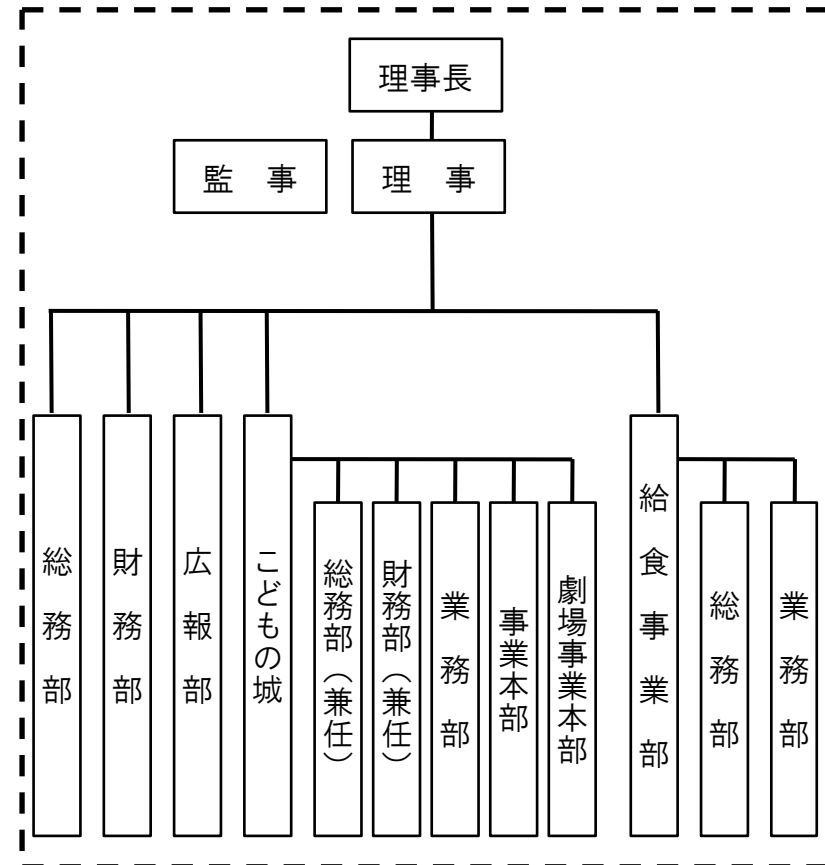
《主な事務・事業》

事務・事業	22年度予算	うち国からの 財政支出
こどもの城(委託事業)	13.7億円	—
児童館巡回支援活動等事業(補助事業)	5.6億円	5.6億円
給食事業	8.4億円	—

《組織体制》

〔法人に占める
管理部門の割合〕

本部	8部(146人)	うち管理部門 2部(14人)	9.6%
支部	—	—	—



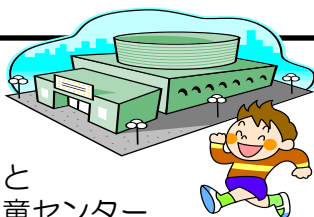
財団法人 児童育成協会の事業について

事業概要

昭和53年6月に、総理府に国際児童年推進会議を設置することが閣議決定され、重点項目として「児童に関する国内施策の充実」が定められ、その一環(児童のための教育、文化、スポーツ施設、公園、遊び場等児童の健全な育成を図る各種施設の整備)としてこどもの城が建設された

国際児童年(昭和54年)を記念し、次代を担う子供達を心身ともに健やかに育成し、その資質の向上を図ることを目的とした児童のための国立の総合施設としてこどもの城を設置。この運営などを行う(財)日本児童手当協会は昭和53年に設立。(→平成8年名称変更し(財)児童育成協会となる。)

こどもの城



- 新生児から高校生までのすべての児童を対象に、芸術・科学・体育・保健・保育など、子どもの文化と福祉のためのさまざまな機能を備えた国立の総合児童センター。(昭和60年11月開館)。

【主な事業内容】

- ① 発達年齢や遊びの種類を考慮しながら、子どもたちに適した遊びの空間づくり
- ② 子どもたちの感じる力=感性を大切に伸ばすため、〈展示=見る〉〈体験=触る〉〈制作=作る〉の3つの要素で構成するワークショップの実施。
- ③ こどもの城に遊びに来た親子(家族)を対象に、子育ての楽しさを伝えるための「親子教室」の開催。
- ④ 小児科医師をはじめ、保健師、看護師、管理栄養士、臨床心理士などのスタッフがチームを組んで、心身両面から子どもとその家族を個別に援助する「小児保健クリニック」の運営。
- ⑤ 舞台芸術を通して、子どもの情操を高めるための青山劇場・青山円形劇場の運営。



児童館巡回支援活動等 事業費等

全国の児童館に対し、「こどもの城」で開発蓄積したプログラムを巡回して提供し、地域における健全育成活動を支援するとともに、児童館職員やボランティアに対する実技指導を行う。
また、活動事例集等を作成し地域における健全育成の推進を図っている。



給食事業

関税暫定措置法により、学校及び児童福祉施設の給食用に限って、無税の取り扱いとされた、低脂肪で高カルシウムのスキムミルク(脱脂粉乳)を輸入し、保育所、児童養護施設などの料理やおやつに活用するよう廉価で安定的に供給している。



児童館巡回支援活動等事業費等の概要

事業の目的

児童の福祉、文化活動の普及推進を図り、もって、児童の健全育成および資質の向上に寄与することを目的とする。

事業規模

平成23年度概算要求額：557百万円（平成22年度予算額：557百万円）

事業の内容

1. 児童館巡回支援活動等事業 261百万円（262百万円）

こどもの城が開発した、子どもと親の遊びを中心とした先駆的なプログラム（約40プログラム）について、全国の児童館等を巡回し、提供するとともに、児童館職員を対象にプログラムの実技指導を実施。

【平成21年度実績】巡回か所数：45か所 巡回事業参加人数：23,672人

主なプログラム	主な内容	か所数	参加者数
幼児や児童を対象とした遊びのプログラム	<ul style="list-style-type: none"> 紙コップからパソコン、太陽電池まで様々なものを使って音が作る不思議な世界を体験するプログラム 敏捷性やバランスを養うことができる鬼ごっこを中心にしたプログラム 身近な素材を使って造形活動を行うプログラム 	7か所	21,711人
乳幼児とその家族を対象とした子育て支援プログラム	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に合わせて母親が赤ちゃんとのスキンシップするためのプログラム 2・3歳児と親を対象とした親子ふれあい体操のプログラム 	32か所	1,102人
幼児や児童を対象とした遊びのプログラムの実技研修	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある素材を活かして楽器を作り、演奏を楽しむプログラムの実技研修 身近なものを使って運動遊びを楽しむためのプログラムの実技研修 	15か所	501人
乳幼児とその家族を対象とした遊びのプログラムの実技研修	<ul style="list-style-type: none"> 母親同士の情報交換や、赤ちゃんとのスキンシップを図るためのプログラムの実技研修 1～3歳児と親を対象とした親子ふれあい体操のプログラムの実技研修 	15か所	358人

2. 中央児童厚生施設事業 268百万円（267百万円）

「こどもの城」でのボランティア活動を希望する者を対象に、活動プログラムの実践方法や遊具・設備の使い方、子どもへの接し方などについて講習する「基礎講習会」や、基礎講習会修了後の者を対象に、必要な技能や知識のさらなる習得を図る講習会を開催。

また、「こどもの城」のボランティア養成だけでなく、全国的にボランティア交流事業やグレードアップ研修を実施。

【平成21年度実績】

- こどもの城ボランティア講習会：年間23回開催、受講者76人
- 児童センターにおけるボランティア交流事業と研修：年間1回開催、受講者1,061人
- ボランティアグレードアップ講習会：年間15回開催、受講者3,713人

3. 啓発活動事業 28百万円（28百万円）

「こどもの城」の活動状況や地域児童館の活動事例、子どもの遊びに関する情報等について、市町村や全国の児童館関係者に提供する啓発活動事業を行っている。

【平成21年度実績】こどもの城の活動状況誌の配布：毎月17,000部